

みんなの人権



キュロスの勅令。ペルシア帝国を建設したキュロス大王は、紀元前539年のバビロン陥落後、バビロニア人の権利と福祉を保障する勅令を公布しました。多くの人々はこれを、史上初の人権宣言だと考えています。1971年にイランから寄贈されたこの銘板は、信託統治理事会と安全保障理事会の議場を結ぶ2階部分に展示されています。

1948年に国連が採択した「世界人権宣言」は、すべての国々にとって人権の共通な基準となりました。この宣言によって、各国政府は、人種や宗教に関係なく、富める者も貧しい者も、強い者も弱い者も、男も女も、すべて平等に扱われるようにする義務を受け入れるよう期待されています。

それ以来、国連は女性の権利、人種差別、子どもの権利など、人権に関する数多くの国際条約を採択してきました。これら条約の締約国となる政府は、それを順守する義務を受け入れることとなります。違反が発生した場合には、条約によって特別に設置された機関がそれを審査し、そうした状況を是正するための勧告を行います。国連はまた、国際人権条約の義務に違反した国を非難することもできます。



国連児童基金（ユニセフ）と世界保健機関（WHO）の主導のもとに、国連はジフテリア、はしか、百日ぜき、ポリオ、結核および破傷風の6つの致命的な病気について、予防接種普及キャンペーンを展開しています。このキャンペーンにより毎年、300万人以上の子どもたちの命が救われています。



世界の人々の6人に1人は読み書きができません。そのうちのほぼ3分の2が女性です。女性は世界の貧困層の70%以上を占めています。また、女性の賃金は低く、場合によっては男性の4分の1に抑えられています。1979年、国連は「女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約」を採択しました。150カ国以上がこの条約を批准しており、100カ国以上から男女の平等に向けて進展が見られたとの報告が出されています。



1989年の「児童の権利に関する条約」を批准した国は、現在までに189カ国に上り、国際条約としては最多の数に達しています。この画期的な人権条約は、それぞれの子どもが生まれながらにして生命に対して固有の権利を有することを確認しています。同条約は各国に対し、いかなる差別もなく、あらゆる子どもにその条項を適用するよう義務づけています。